

# 施策評価シート（平成29年度実績評価）

## ◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	3-2	政策名	学校教育の充実	政策の 目指す姿	夢と希望を持ち、たくましくいきいきと育っています	施策 主管課	学校教育課	施策主管 課長名	中村 哲
	施策No.	3	施策名	特別支援体制の充実	政策の 目指す姿	すべての児童生徒が、毎日いきいきと学校生活を送っています	関係課名			
	<b>現状と課題</b> ・不登校児童生徒数は県や全国の水準を下回っていますが、その様子は多様化、複雑化しているため、対応が難しいケースが増えています。 ・LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥多動性障がい)等の発達障がいの多様化と保護者のニーズの多様化が進んでいます。									

## ◎ 前年度の評価の振り返り

### (前年度評価時の今後の方向性)

- ・不登校・不適応児童生徒の未然防止、早期対応に資するため、市教委(指導主事、教育相談員、生徒支援員等)及び関係機関が連携して組織的に対応できる体制を構築する。
- ・「個別の教育支援計画」作成について、各校の取組を支援するためより具体的な作成方法の提示等を検討する。
- ・特別支援教育に関する研修を充実させるとともに、ふれあい共育推進員の配置充実を検討する。

### (反映状況)

- ・不適応対策として、市教委担当者によるケース会議を実施した。
- ・「個別の支援計画」作成について、説明会を設定し、100%達成した。
- ・ふれあい共育推進員を要望する学校すべてに配置することができた。

## 1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

### (1) 学校適応指導の充実

#### ○教育相談の充実

- ・問題を抱える児童生徒及び保護者への教育相談や特別な支援が必要な児童生徒に関する巡回指導の実施
- ・適応指導教室(風の子ひろば)において、通級する児童生徒の学習・生活指導を行う

#### ○生徒支援員による不登校児童生徒への支援の充実

- ・学校・保護者・関係教育機関等と連携し、不登校児童生徒に直接指導を行う

### (2) 特別支援教育の推進

#### ○研修会等の実施による特別支援教育の理解促進

- ・ふれあい共育推進員連絡会の実施

#### ○特別支援教育支援員による児童生徒の個に応じた支援の充実

- ・障がいのある児童生徒のニーズに応じて、学習や生活上の支援を行う「ふれあい共育推進員」を配置

#### ○ことばの巡回指導の充実

- ・ことばの巡回指導員を4名配置し、ことばの教室設置校以外の小学校13校をすべて巡回し、指導を行う

## 2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31
不登校児童生徒の出現率	問題行動等調査は、文部科学省において児童生徒の行動実態を把握するために毎年実施しており、不登校児童生徒の状況を測る指標として適当	不登校児童生徒(年間30日以上欠席した児童・生徒)数/全児童・生徒数	%	目標値	小0.20 中1.53	小0.15 中1.43	小0.10 中1.33	小0.26 中1.92	小0.22 中1.84	小0.18 中1.76
				実績値	小0.13 中1.75	小0.20 中1.89	小0.33 中1.97	小0.25 中2.08		
個別の教育支援計画を作成している学校の割合	特別支援教育体制整備状況調査は、岩手県においてその状況把握のために毎年実施しており、個別に支援を要する児童生徒への支援状況を測る指標として適当	障がいのある児童生徒の個別の教育支援計画を作成している学校の割合	%	目標値	小60.0 中45.0	小80.0 中70.0	小100.0 中100.0	小60.0 中50.0	小80.0 中75.0	小100.0 中100.0
				実績値	小52.6 中81.8	小36.8 中27.3	小68.4 中54.5	小100.0 中100.0		

## 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>■成果指標「不登校児童生徒の出現率」・・・【達成度 小学校a 中学校b】                      小学校はわずかではあるが出現率が低下した。各学校における早期発見・早期対応の取り組みの成果と考える。中学校は出現率が増加している。不登校の要因の多様化・複雑化が背景にあり、全欠状態が継続している生徒が出ている状況である。</p> <p>■成果指標「個別の教育支援計画作成の割合」・・・【達成度 小学校a 中学校a】                      個別の教育支援計画作成シートの様式を提示し、校長会議や特別支援コーディネーター研修会等での継続した周知を行ってきた。結果、どの学校についても障がいのある児童生徒の状況を把握することが可能になった。</p>

